

GWI Update 2016年7月27日号

### GWI第32回世界大会ケープタウン（2016年7月24-26日）の講演者達

一般公開会議（2016年7月24-26日、於ケープタウン）に著名な講演者ら多彩な方々をお招きできてGWIは誇らしく思う。開会にあたり、まっ先にお話をいただくのは、高い評価を受けている基調講演者の中でも **Mrs. Irina Bokova**（UNESCO事務総長）である。**Mrs. Bokova**はその経歴を通じ長年、男女平等運動に参加し、繰り返し女子教育への更なる投資を呼びかけてきた。**Relebohile Moletsane**教授（**Kwa-Zulu Natal**大学、農村教育専門）は「中等学校での妊娠を防ぐための介入の可能性」のパネルディスカッションで、巾広い経験を語る。教育の見地から「コンピューターを使いたいじめと脅し」を、国際通信連合（ITU）の**Ms. Carla Licciardello**と**Scholars at Risk**の**Ms. Margaret Coons**が討議する。

GWI Update 2016年7月20日号

### 国連ジュネーブ本部でのCEDAW（女子差別撤廃委員会）の第64会期

[女子差別撤廃条約](#)（CEDAW）は女性の人権についての最も包括的な国際協定である。それはジェンダーに基づくあらゆる差別を撤廃することを各国に呼びかけ、男女の完全な平等を達成するための課題を定める。ジュネーブで7月4～22日に開催中の今期は、審査対象の国の中にフランスやトルコがある。両国にはGWIに加盟するNFAがあり、GWI会員は各国で女兒と女性のエンパワーメントのためにCEDAWを上手に使ってきた。詳しくはGWIのサイトで。

GWI Update 2016年7月13日号

### オーストリア大学女性連盟ウィーン支部の取り組み

オーストリア大学女性連盟ウィーン支部はアフガニスタン、イラン、シリアからの小グループの難民女性達と定期的に会っている。友好関係を申し出て、彼女達がオーストリアに溶け込むようにと手助けしている。会員達は特別にドイツ語教育を行ったり、難民達の社会的、知的要求を満たそうとしたり、病院受

診のような事柄に实际的な助言をしたりする。また定期的に一緒に旅行をする。女性達を難民用の住居から連れ出し、ウィーンを知るようにさせつつ「普通の生活」を経験させるためである。GWIとその加盟団体（NFAs）には、長年続いている[ヘッグ・ホフェット基金](#)に見られるように、難民の女性達を助けてきた歴史がある。この基金は戦争、政変、その他深刻な非常事態のために故郷を離れた大卒の女性達を助けるものである。

**GWI Update 2016年7月6日号**

### デジタル技術と万民のための教育

教育、知識、市民社会への参加に平等なアクセスを可能にした科学技術は、不平等を減らす強力な手段になった。第35回人権理事会(HRC32)の「デジタル技術と万民の教育権」に関する公開討論会で、GWIの国連代表Ms. Manjit Dosanjh は以下のように説明した、「地方の状況にあてはめると、科学技術は情報を安価に手に入れ、アクセスの差を埋める大変有効な方法になりうる。」これはヨーロッパ核研究センター(CERN)によって例証されている。CERNは世界中の出先機関でその地域に合わせた素粒子物理学の教師訓練プログラムを運営している。Ms. Dosanjh は次のことを強調した、「科学技術を人間の教師と対面する全人的な学習の代替品とは決して考えてはならず、そして教育を受ける権利は公的に守られるべきものだ。」CERNのプログラムの情報は[ココ](#)を参照。